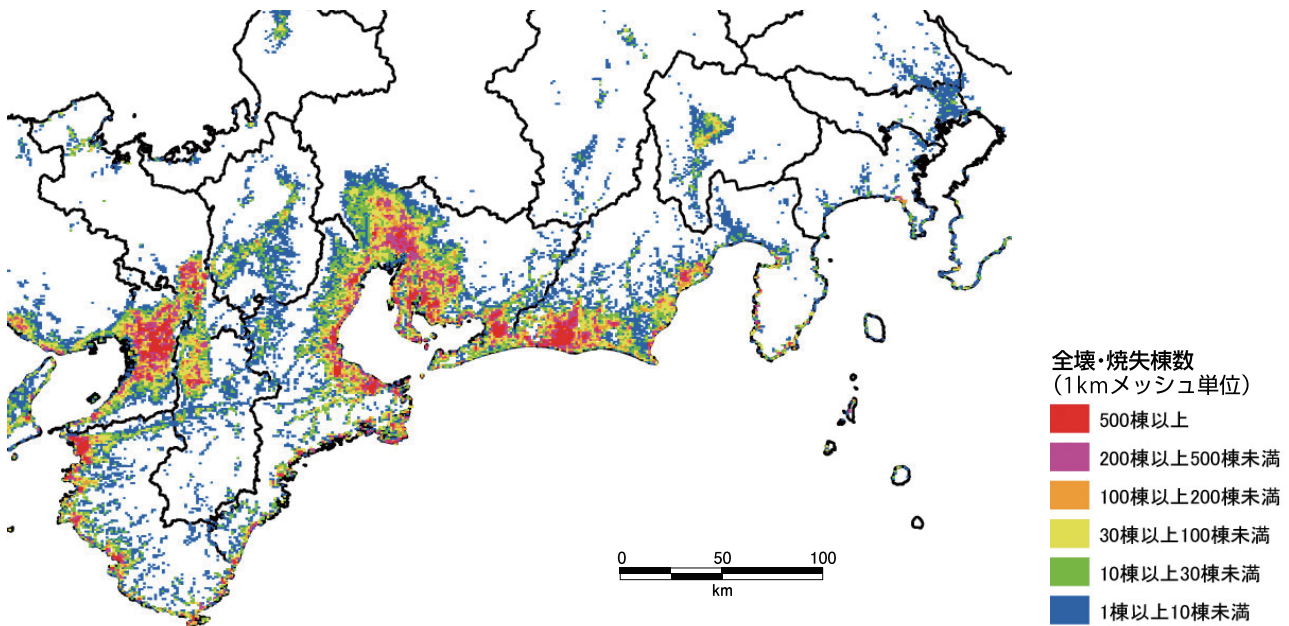


「大きな被害を想定」

冬・夕方・風速8m/sで 全壊・焼失 約95万棟を想定。

南海トラフ巨大地震では、揺れ、液状化、崖などの急傾斜地の崩壊、火災などによって、建物の甚大なる被害が想定されています。

南海トラフ巨大地震による全壊・焼失棟数



各県で全壊棟数が最大となるケースの要因別内訳

(棟)

	揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	火災	合計
静岡県	約208,000	約4,900	約30,000	約600	約75,000	約319,000
愛知県	約243,000	約23,000	約2,600	約400	約119,000	約388,000
三重県	約163,000	約6,500	約24,000	約800	約45,000	約239,000
岐阜県	約3,900	約3,800	— (わずか)	約20	約400	約8,200

冬・夕方、風速8m/s

地震動：陸側ケース、上の表の静岡県の地震動のみ基本ケース

地震動に対して堤防・水門が正常に機能した場合

津波ケース（ケース①「駿河湾～紀伊半島沖」に大すべり域を設定）

この被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、都府県別の数値はある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

出典：平成24年8月29日中央防災会議「南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）」から部分抽出